

4 初年次教育における「歯科衛生士概論」の意義と効果

本間 和代

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 初年次教育, 歯科衛生士概論, 意義

はじめに

本学歯科衛生士学科に入学した学生は、高校までに学んだ科目とは性質の異なる多くの医療系科目に取り組むこととなり、戸惑いも大きい。我々教員は3年間の限られた修業年限の中で、効率よくカリキュラムを実行していかなければならない現実と、入学生の大学生活への夢と期待を壊してはいけないという責任の狭間で悩むことが多い。

そこで、初年次教育の必要性が言われる昨今にあって、「歯科衛生士概論」の果たす役割は重要であると考え、また、平成24年より国家試験対象科目となることから出題基準を意識してシラバスを作成し、講義を進めてきた。その中で「歯科衛生士」を生涯の職業として選択し入学してきた学生に、その職業の魅力と将来性を伝え、いろいろな教科を学ぶことの意義と努力の必要性、技術を習得することの楽しさを認識してもらえよう取り組んできた。

本教科を受講した学生は、精神面、生活面の変化を知り、今後の教育に活かして行くことを目的に調査した。

対象および方法

対象：平成22年度前期に「歯科衛生士概論」を受講した歯科衛生士学科1年57名（女子）である。

方法：平成22年9月・11月に、①講義内容で興味を持った項目、②歯科衛生士概論を学んで変化したことについて、質問紙法（自由回答形式）でアンケートを実施し、回答内容を分類して検討した。

結果および考察

1. 講義において興味を持った内容

1年前期に開講した歯科衛生士概論（30時間）の講義で、学生が興味を持った内容の上位6位を図1に示した。歯科衛生士の職業そのものに関する内容に興味

が集中したが、歯科衛生士の歴史に興味を示したことは意外であり、期待が持てた。

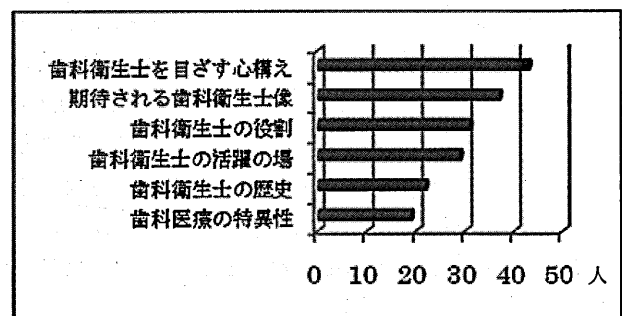


図1. 講義において興味を持った内容

2. 歯科衛生士概論を学んで変化したこと

学生が本教科を学んだ後、学習・生活面で変化したことは図2に示す通りで、医療人を志すにあたっての生活態度・心構えに変化が多く見られたが、不安を抱いた2名を見逃してはいけない。

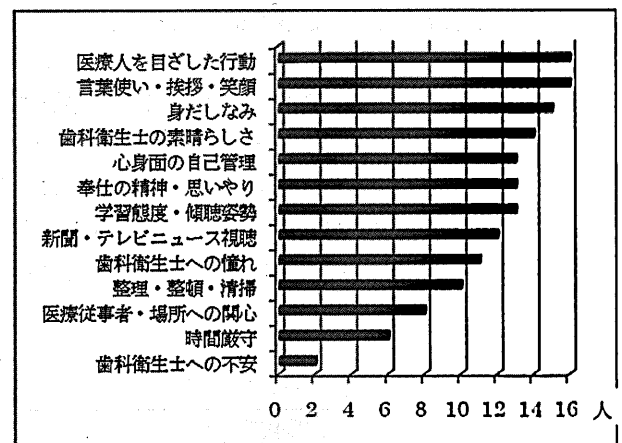


図2. 学習・生活面で変化したこと

まとめ

初年次教育において、如何にして学業に夢と希望を持たせ継続させて行くかは我々の大きな課題であり、学生の側に立った視点で考えることが大切である。